

令和 7 年度の学校評価

本年度の 重点目標 ① 安全で安心できる学校づくり ② 個に応じた教育活動の充実 ③ 学校からの発信力の強化			
項目 (担当)	重点目標	具 体 的 な 方 策	評価結果と課題
小学部	・「笑顔で元気良く、自主的に」を目標に、個に応じた目標を設定し、人間関係の育成や社会自立に向け、学校生活や日常生活を過ごすことができるようにする。 ・学校生活の様子を保護者に発信し、保護者と情報共有を行い、協力して支援できるようにする。	・挨拶や相手を思いやる気持ちを大切にし、円滑な人間関係やコミュニケーション力を高めるために、学校生活全般をとおして支援する。意欲的、自主的を大切にし、児童が心から「学校は楽しい」と思い、毎日登校できるようにする。 ・学校生活の様子を連絡帳や懇談会等においてしっかりと保護者に伝え、児童の成長をしっかりと実感できるようにする。	・登校時から元気に挨拶をする児童が多く、授業にも積極的に取り組む姿が見られた。できたことを認められる経験が増えたことで、自信をもって学校生活を送る児童が大半であった。児童の主体性をさらに高めるためには、活動の選択肢や関わり方の工夫を引き続き学部全体で共有していきたい。 ・連絡帳や電話連絡、懇談会などを通して、学校生活の様子や児童の成長を丁寧に伝えることができ、保護者との信頼関係を深めることができた。ホームページでの行事紹介は更新が学期末に集中したため、年間を通して継続的に発信できる体制を作っていきたい。
中学部	・誰もが楽しく、安心して登校できる環境を整え、総合的な学習の時間をはじめ、様々な授業実践から生徒の実態を正しく把握し、主体的に学力を育成する。 ・中学部の活動を積極的に発信し、家庭との連携や情報共有を進める。	・魅力と活気ある学校を目指し、教職員から率先して元気に挨拶し、普段と様子が異なる生徒がいた場合は、すぐに個別の対応をする。 ・総合的な学習の時間を設定し、生徒が自ら課題を見つけ、それに伴う情報収集を年間指導計画を基に授業で実践し、まとめ、発表する機会を設定する。 ・本校ホームページを中心に活動内容や写真をアップする。	・生徒たちそれぞれのコミュニケーション方法を把握し、きめ細かく支援を続けることで、在籍する生徒たちは、学校への期待感をもって登校することができた。また、保護者との連絡を密にとることで、互いの信頼関係を深めることができた。 ・総合的な学習の時間を設定したことで、生活単元学習とのすみ分けが明確になり、授業形態や指導方法をより良いものに引き上げることができた。 ・中学部として、決められた手順や時期を守って、本校ホームページに情報を発信することができた。
高等部	・良き社会人として生活する力を身につけ、健康な心と体で責任をもって行動できる子を育てる。 ・卒業後の進路を見据えながら生徒個々の働く力を伸ばす。	・コース別の支援などを通して卒業後の職業生活、社会生活、家庭生活に必要な力を伸ばす。 ・生徒一人一人に対して的確なアセスメントを実施したり、生徒の課題や支援方法を学校、家庭、関係諸機関とで共有したりすることで、実態や特性に応じた生徒指導、進路指導の充実を図る。 ・各学年が集団としてまとまりをもちながら、チームとして生徒一人一人に行き届いた支援を心掛ける。	・生徒一人一人が抱えている問題(生活環境や問題行動等)について、学校や家庭、関係諸機関等のそれぞれの役割を明らかにし、連携しながら支援をすることができた。今後も情報を発信したり、積極的に働きかけたりしていきたい。 ・高等部生徒数の減少傾向や実態の重度化等にもない、今までの授業内容や行事等の実施が難しくなってきた。より効果的な授業や行事にしていくなために、学年主任を中心に主任会を通して検討を重ねていき、おおむね来年度の方向性を明らかにすることができた。 ・「分かった！」を引き出すための支援の在り方」の全校研究のテーマに合わせながら、日頃から生徒一人一人の学習状況や成長を把握したり、学習の三つの柱をバランスよく盛り込んだ授業を工夫したりしてきた。また、ICT 機器を有効活用できるよう、情報教育部をはじめ職員同士で活用方法等について情報共有をしてきた。今

			後も継続して取組続けていくことで、授業の質を向上させていきたい。
総 務	・保護者に配信される文書の内容を精選し、形式を最適化していく。 ・更衣ロッカーや職員の机などの備品の過不足を把握し適切に配備する。	・個人情報に配慮した内容にし、最善の対策を取れるようにする。 ・スマートフォンやタブレット端末などで閲覧することを想定し、形式や内容を検討する。 ・管理している机やロッカー等の備品を再点検するとともに、職員の職種などに応じて適切に配置できるようにする。	・配信や配付文書について、特に個人情報は確認を繰り返すなどの十分な配慮ができた。今後さらに、配信や HP などの情報を総務部内で見直し、検討していく。 ・今年度は更衣ロッカーや職員机について、鍵を含めて配置することができた。今後、職員の増減に対応できるように予備の備品を確認していく必要がある。また、職員の椅子についても予備を準備しておく必要がある。
教 務	・個々に合わせた指導・支援ができる環境を整える。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教育環境の整備に努める。	・児童生徒一人一人の課題を明確にして、指導・支援に生かせるようにする。 ・諸帳簿等の手引きを見直し、指導者が活用しやすいようにする。 ・ICT 機器を活用した授業や外部講師による授業等を取り入れた授業づくりを推進する。 ・児童生徒の発達段階に応じた指導・支援ができるようにする。	・児童生徒一人一人の様子や課題など誰が見ても分かり、指導・支援に生かすことができるように個別的教育支援計画・個別の指導計画などの様式変更を進めている。 ・外部講師の活用では、舞台芸術総合支援事業やパラアスリートとの交流会などを通して、生徒一人ひとりが表現活動への創造的な思考力が育まれたり、生涯スポーツへの関心が高まったり、日常の活動意欲にも良い影響があった。今後は、より児童生徒の発達段階に合わせた指導・支援の充実を目指し、ICT を活用した授業の推進を図っていく。 ・教科・領域会では、学習指導要領を基に、観点別の目標を入れた年間指導計画モデル案の整備を行った。今後は、合わせた指導の中で各教科・領域の目標達成できるよう指導内容の充実を図っていく。 ・次期学習指導要領改訂に向けての情報を共有・発信をしていくことや現行の教育課程を見直す視点を明確にし、学校行事や各教科・領域の系統性を整理していく。
自立活動	・アセスメントに関する職員の力量向上を目指す。 ・外部専門家活用事業を通して職員の専門性の向上を目指す。	・J☆sKep や SM 社会生活能力検査の活用方法を職員に提示する。 ・他校の自立活動チェックシートを試行し、本校の実態に合わせて使いやすい形に整えていく。 ・外部専門家と各担任とのやり取りのツールを工夫し、より充実した事業にする。 ・他の児童生徒への指導の参考になるように、実施内容や助言の内容を	・年度初めに自立活動ハンドブックを全校職員にデータで配布した。今後、内容の確認と精査・追記を毎年行う。 ・SM 社会生活能力検査は、昨今の発達検査を取り巻く状況から廃止した。J☆sKep に関しては、ハンドブックに実施方法の注意点を明記した。 ・チェックシートは、全校職員を対象に試行とアンケートを実施し、アンケート結果をもとに質問項目の見直しを行った。今後、教務部とも連携し、さらに内容を精選していく。また、来年度の夏を目途に再度試行とアンケートを行い、形にしていく。 ・外部専門家については、本年度 2 名の専門家に来校していただいた。専門的な知見から支援のアドバイスをいただき、職員の専門性の向上につながった。専門家に提示する事前資料等の書類については、作成にあたっての負担感を減

	・自立活動室の管理・運営	職員全体へ情報共有する。 ・より使いやすくするため、物品の管理方法を工夫したり、物品の状態を定期的に確認したりする。	らしていけるよう内容を検討する必要がある。 ・自立活動室の管理については、棚にカーテンを取り付けることで、自立活動室で授業をする際の視覚的な刺激を減らすことができた。どの棚に何が収納されているか、分かりやすくするための表示を工夫する必要がある。 ・古い教材・教具も多いため、定期的に安全の確認を行った。一部紛失や破損、不足もあったので、修繕したり追加購入の希望を出したりした。丁寧に扱うことを改めて職員に伝えながら、予算の都合がつく範囲で古い物を買直ししていく。 ・自立活動室の使用頻度を上げるため、有効活用について分掌内で検討していく。
教育支援	・特別支援学校のセンター的機能の充実を図り、相談活動や情報提供に努める。 ・校内支援の充実に努め、児童生徒の適切な支援につなげる。	・地域の小中学校および高等学校のニーズを把握し、巡回相談等の相談活動を行う。障害や特性に応じた支援方法について本校の取り組みや使用教材を紹介するなど、具体的に分かりやすく情報提供する。ケースによっては、地域の関係機関につなげられるようにする。 ・支援会議の実施やスクールカウンセラー等の活用の提案を適宜行い、児童生徒の課題の早期対応に努める。必要に応じて、校内支援委員会を開き、校内で情報共有して包括的に支援できるよう、引き続き体制を整える。	・小中学校への相談活動では、事前の資料等で各校のニーズや児童生徒の課題を把握した。自立活動や進路指導、生活面、学習面等について具体的な支援方法や教材について情報提供しながら検討することができた。事例によっては、家庭支援につなげられるよう、地域の関係機関についての情報提供に努めた。 ・各学年、各部において、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの利用や支援会議の実施において必要や児童生徒への提案や連絡・調整することができた。関連する校務分掌との情報共有や連携を継続して行っていく。
研 修	・全職員が研修及び研究に主体的に取り組み、自己研鑽に努められるようにする。 ・研修及び研究で得た知識を日々の指導に還元できるようにする。	・職員のニーズに合った研修内容を検討し、全校研修に取り入れる。 ・校外研修やeラーニング研修などの情報提供を行う。 ・全校研究「分かった！を引き出すための支援の在り方」に取り組み、指導力の向上を図る。	・夏季休業中に実施した職員研修では、職員が希望する講座を多数設定し、例年よりも多くの職員が参加した。他校の職員や保護者向けに実施したものもあり、地域のセンター的機能を担うことができた。また、研修の様子をホームページに掲載するなどの情報発信も行った。 ・様々な校外研修を随時発信し、職員が研鑽に努められるようにした。 ・全校研究では、支援の在り方というテーマを設定したことで、日々の授業や指導に還元しやすい取組ができた。学習指導要領を参考にした研修の後に各研究単位で授業実践に向けて計画を進めたことで、より内容を深めることができた。報告会や事例の提示等、実践共有の場を充実させ、研究成果を継続的に活用できるシステムを整えることが課題である。
図 書	・本を探し易く、使い易い図書室環境を整備する。 ・児童生徒が本と出会うきっかけを増やせるような取組を行う。	・劣化している掲示物や表示などの手直しを行い、見出しや配架方法の改善を図る。 ・テーマに沿った本の展示や体験的な要素を含む図書室行事を企画する。	・劣化していた表示を新しくするなど環境整備を進めることができた。 ・青少年にすすめる県民運動では、課題図書の中から絵本を選書し、視聴覚教材や塗り絵を作成し紹介することで参加することができた。

	・本を利用した授業を支援する。	・図書室だよりを利用して取組紹介を行ったり、図書室利用教室で地域の図書館紹介を行ったりする。 ・蔵書紹介、読書教材の作成、自作授業教材の収集・紹介・貸出を継続し、グループウェア等で周知する。	・図書室だよりを利用して新しく入った本の紹介や取組を紹介したり、掲示板を利用して地域の図書館紹介を行ったりすることができた。 ・読書週間では、大阪万博をテーマとした本の展示やクイズラリーを用意するなど、本への興味をもってもらう一助とすることができた。 ・引き続き、教職員向けとして、職員室に月に 2 冊程度蔵書を陳列するなど本の活用を進める。
情報教育	・ホームページを用いた情報発信力の強化・充実 ・児童生徒・指導者の ICT 活用の促進 ・ICT 環境の整備や利便性の向上	・CMSに移行し、情報発信のための安定した更新作業できる環境を整備する。 ・実践例やアプリ、プログラミングなどを紹介する。 ・端末を整備したり、ユーザーのニーズに応じたアプリや取組を紹介したりするなどして、より利便性の高い ICT 環境を整える。	・CMS での通年運用を経て、安定した更新環境を構築することができた。 ・Teams やロイロノート、iPad アプリ等を授業で用いたり、生成 AI の活用や動画編集についての問い合わせが増えたりして、学校全体での ICT 機器活用への意欲が向上した。 ・次年度より高等部入学生の端末が個人購入に切り替わったり、ライセンス運用などが変更されたりすることを踏まえ、セキュリティ保守を考慮しつつ、より利便性のある ICT 環境の整備を進める。
生徒指導	・スクールバスの運行計画を見直し、5台のバスの乗車人数の偏りを減らす。 ・津波等の水害が発生した際の対応について周知する。 ・校内における防災や防犯への取組の様子を保護者等へ発信する。	・各バス停における利用人数を把握し、必要に応じてバス停の新設や変更、バス経路の見直しを検討する。 ・本校の災害マニュアルを基に水害時の対応について全職員に向けて周知する。 ・大津波警報や津波警報の発令を想定した避難訓練を計画し、実施する。 ・シェイクアウト訓練や避難訓練の様子等、児童生徒の取組を発信する。 ・職員が行っている不審者侵入時の対応訓練の様子を発信する。	・次年度のおおよその入学予定者を把握し、経路の改訂やバス停の組み合わせを変更し、次年度の運行に向けて調整を行った。今後、再来年度を見据え、バスの増車を視野に新たな経路の検討を進めていく。 ・水害を想定した訓練の立案に向け、訓練の内容や垂直避難先の調整等、様々な立場からの意見を収集した。初めての実施となるため、まずは垂直避難を行ってみて、高い場所へ避難することの必要性を知る機会として訓練を行った。今後、垂直避難に関する避難経路図の作成を検討したい。また、今回の訓練における課題等を踏まえ、次年度の訓練に向けて見直したい。 ・ホームページへシェイクアウト訓練や避難訓練の様子について掲載を行った。次年度は、避難訓練だけでなく、生活・安全に関する取組や交通安全など様々な取組を掲載できるように計画したい。
保 健	・体育的な活動の見直しを図る。 ・食に関する指導の充実を図る。 ・全校で安全管理や環境美化に努める。	・運動会や水泳指導の実施内容を見直し、教育活動のより充実や業務改善を図る。 ・食に関する指導の全体計画を基本に各教科や給食時などにおける食育の充実を図る。 ・活動の様子を情報提供する。 ・清掃箇所や清掃方法などの周知徹底を目指す。 ・安全点検実施の際の留意点の整理や異常発見時の早期対応などを検討する。	・運動会や水泳指導については、実施方法の見直しを進めて、児童生徒の安全を確保しながら実施できた。熱中症対策などの環境整備には引き続き課題が残るため、教育活動の充実も含めながら今後も改善策を検討する。 ・食育については、栄養教諭による教室訪問や給食だよりの活用により、児童生徒や保護者への情報発信を行った。今後は、活動の見える化を進めて、より効果的な食育を目指す。 ・安全点検簿をデータ入力にすることで危険箇所の早期発見、情報共有ができた。しかし、校内の環境美化や清掃方法の周知に課題が残ったため、今後は職員数や担当区域の調整を行い、

		・安全点検実施簿の書式や回覧方法について、見直す。	整備する。
進路指導	・児童生徒や保護者と職員に進路指導に関する情報提供をする。 ・実習中に把握した課題について、保護者や学年職員と情報を共有し、学校生活で重点的に取り組めるようにする。	・本校の進路指導の流れや障害福祉サービスの種類などをホームページに掲載する。 ・保護者と職員を対象とした障害福祉サービスの基礎知識の研修会を行う。 ・生徒や保護者と相談しながら実習中の目標を設定する。 ・実習の反省会や実習担当者から実習の評価や今後の課題を聞き、本人や家庭と学校で情報共有したうえで、新たな目標を設定する。	・進路指導に関する情報をホームページに掲載し、保護者に伝えることができた。来年度以降も、有効に活用してもらえるように説明会等で保護者に伝えていく。 ・研修会の参加人数も多く、関心が高いことが良く分かった。来年度以降も、テーマを変えながら夏季休業中に計画していく。 ・実習先の評価を生徒や保護者に伝えることで、より課題について意識を高めて取り組むことができた。今後も、実習の評価を保護者と共有し、一人一人の課題にしっかりと取り組んでいけるようにする。 ・来年度は、実習に関わる書類の内容について精選し、活用しやすい形式にしていく。
学校関係者評価を実施する 主 な 評 価 の 視 点		① 児童生徒の健康や環境を適切に管理し、健康で安全な学校生活を送れるようにする。 ② 教員研修及び校内研究の充実を図り、質の高い教育活動を提供する。 ③ 児童生徒一人一人の正確な実態把握に努め、個に迫った目標を設定し、教育活動を進める。 ④ 児童生徒の成長や課題を保護者と共有できるよう、授業や学校生活の様子についての発信力を高める。	